

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101066
法人名	社会福祉法人 平成記念会
事業所名	グループホーム 勝占
所在地	徳島県徳島市勝占町松成43番1 (電話) 088-669-3610

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20年 10月 16日

## 【情報提供票より】(平成20年 9月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算 旧館 8.2人 新館 7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	5 階建ての	5 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~27,900 円	その他の経費(月額)	その他実費
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	— 円	昼食 — 円
	夕食	— 円	おやつ — 円
	または1日当たり		1,380 円

### (4) 利用者の概要( 9月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 平成博愛会 博愛記念病院
---------	-------------------

徳島県 グループホーム勝占

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は法人の関連施設が並ぶ一角の5階にある。エレベーターを降りた広いホールの左右に木製の格子戸があり各ユニットの玄関となっている。採光のよい広い共用空間には畳コーナーやソファが配置され、テレビを見るなどのくつろぎの場所となっている。また数か所に置かれた大きな観葉植物も憩いの場に馴染んでいる。広い壁面には利用者の作品や写真などが掲示されている。会話をしながら食事をする利用者の表情は穏やかで安心感が漂っている。利用当初から帰宅願望を訴え続ける利用者には家族と密な連携を取りながら支援している。医療機関が隣接しているため緊急時やターミナルに対する体制が整っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「地域との付き合い」、「運営に関する家族等意見の反映」、「居心地のよい共用空間づくり」は改善されている。「評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」については改善に至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で分担して記入している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催して利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表で構成されている。会議では行事や現況の報告が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者や家族からの意見・苦情・要望等には速やかに対応し、意向にそえるよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の民生委員・自治会・老人会等の定期的な集会には場所の提供をしている。祭りや老人会の遠足に参加したり事業所のホールを利用しての公開行事などでも交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由・尊厳・喜び」を理念とし、その人らしい暮らしを地域で支えるケアを全職員が目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と共に実践目標を掲示し、ミーティング等でも確認し合いながら管理者、職員は実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月の民生委員・自治会・老人会などの集会に場所を提供したり、農業祭を事業所のホールで行ったりして交流を図っている。また地域の祭りや老人会の遠足に参加したり、だんじり組み立ての見学に行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で分担して記入しているが、協議が不十分であり共通理解に至っていない。外部評価結果についてはミーティングなどで討議しているが、全ての課題の改善には至っていない。	○	自己評価・外部評価結果については全職員で共通理解を持ち、計画を立てて課題の改善を実践するなどしてサービスの質の向上を図られたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催して利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表で構成されている。会議では行事や現況の報告が行われている。しかし参加者の出席率は低く、また会議では双方向的な話し合いが行われていない。	○	運営推進会議には地域住民や自治会などにも積極的に参加を呼びかけられたい。また会議では自己評価や外部評価結果などを報告して意見や評価、要望を出してもらうなど双方向的な討議を重ねられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退居状況を定期的に報告している。しかしそれ以外に行き来する機会を設けられていない。	○	事業所の実態や課題解決について相談したり、助言を受けたりできるよう積極的に働きかけられたい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には生活状況や健康状態について話し合い、問題がある時はその都度話し合い解決している。金銭出納帳はケアプランと併せて定期的に報告しサインをもらっている。グループホーム便りは4か月に1回発行して届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望等は日常的に聞き、速やかに対応できるよう努めている。前回の外部評価での課題である意見箱の設置場所については家族との討議の結果、直接職員から見えないことから1階に設置することになり、改めて周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。やむを得ない場合は利用者・家族にその都度説明して理解を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会には全員が参加している。外部研修などの案内は周知されているが、計画はなく勤務体制の問題もあり参加し難い状況である。	○	年間の研修計画を立てるなどして、職員の習熟度に応じ段階的に研修の機会を確保されたい。また研修報告書を回覧するなど、情報を共有することによる職員の意識向上が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修や相互評価事業に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに本人や家族と十分話し合い、見学や体験入居により馴染みながらのサービス開始に繋がっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は食事・洗濯物たみ・部屋の片付けなどを職員と会話を楽しみながら一緒に行っている。利用者と職員は一緒に過ごす時間が長く、喜怒哀楽を共感することで絆を深めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の言葉の端々から本音をキャッチし、希望・意向の把握に努めている。家族の意見も交え、利用者本位の支援ができるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで家族・職員等で話し合い、利用者の意見も取り入れた介護計画が立てられている。介護計画には家族のサインがある。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しと、状況変化などに伴う見直しも適宜行われている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による日常的な健康管理などで、利用者や家族の安心につながっている。また受診については、利用者や家族の希望にそった柔軟な支援が行われている。併設病院から医療・看護の支援があり夜間には看護師の巡回による協力も得られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前のかかりつけ医を受診できるよう支援している。家族の状況によって受診支援を行った際には情報を共有できるよう配慮するなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族、かかりつけ医、職員間で話し合い、看取りの指針に同意を得て全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護の重要性について理解している。記録はキャビネットで保管し、理念に基づいた丁寧で利用者の尊厳を保持した言葉遣いに注意がはらわれ、対応が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はその日の利用者の希望や体調に合わせた支援を優先し、外出を予定したり、流動的にスケジュールを変更したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と同じテーブルで会話やさりげない支援のもとで食事を楽しんでいる。準備や後片付けなどは声をかけ合いながらできる事を分担している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった入浴支援を行っている。また入浴を拒否する利用者については、言葉かけやタイミングを工夫するなどして入ってもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	たくさんのプランターで可愛い花を育てている方や、小さな折り鶴を用紙に貼り付けて大きな作品にして各所に掲示されている方がいる。また利用者の力量にあった作業の分担、喫茶店や買い物に出かけるなどの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には近隣での散歩を楽しんでいる。また車に乗って買い物に出かけるなど、利用者の希望にそった外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で夜間想定などの避難訓練を年2回行っている。スプリンクラーも設置されている。しかし地域の人々の協力を得られるような働きかけが行われていない。	○	地域の人々の協力を得られるような働きかけが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し、利用者の状態に応じて支援している。献立は併設施設の管理栄養士の助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光のよい広い空間に畳コーナーやソファがゆったりと配置され、テレビを観るなどくつろぎの場所となっており、大きな観葉植物も憩いの場に馴染んでいる。広い廊下に置かれたプランターに咲く花々や壁面の作品にも居心地のよさが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く清潔な居室には利用者が使い慣れた筆筒などを置いている。それぞれの利用者にとって居心地よく過ごせるよう配置を工夫するなどしている。		